

令和 5 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

令和5年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

1. 常に生徒の安全を優先し、安心できる学校づくり
2. 開かれた学校づくり
3. 新しい市尼を創造していく学校づくり

学校評価の観点

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び織のつながりを重視した校種間の連携に努める</p> <p>(2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる</p> <p>(3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る</p> <p>(4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</p> <p>(5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る</p>	2.9	3.0
取組	成果	課題と改善策
<p>(1) 基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>(2) 1時間の授業を積極的に取り組み、日々の学習活動を確立する。</p> <p>(3) 「文武両道」を目標とし、心身ともに鍛える学校生活を確立する。</p> <p>(4) 国際的な視野で物事を幅広くとらえることができるようにする。【1学年】</p> <p>(1) オープンキャンパス参加やスタディサプリを利用して具体的な目標設定をさせ、学習計画を立てる。【2年生】</p> <p>(1) 朝学習(SHRまでの時間帯で課題に取り組む)の継続。</p> <p>(2) 人権教育の中で就職差別問題に取り組む、社会の基礎を学ぶ。</p> <p>(5) 各教室に設置したプロジェクターを利用し、情報活用能力を育成する。【3年生】</p> <p>オープンハイスクールにおけるICTを活用したプレゼン(学校説明)の実施 →発表生徒の情報活用能力の育成【総務部】</p> <p>classroom(PCアプリケーション)はスマートフォンやタブレット、PCを利用し、遠隔にて、生徒への連絡、課題の出題や採点ができるアプリケーションである。このアプリケーションを引き続き今年度も利用する。スムーズにアカウント移行を行い、生徒のストレスのない利用に繋げたい。生徒の学習支援をより強化できるように他のgoogleアプリケーションを併用し、効果的にclassroomが使用できるように研修を積み、生徒の積極的な利用に繋げたい。【教務部】</p> <p>関係図書を購入を行う。【図書部】</p> <p>アレルギー等で授業場所での授業に参加できない生徒に対するオンラインでの授業参加【体育科】</p>	<p>8;25までにはほぼ全員が登校し落ち着いて朝学習に取り組むことができた。</p> <p>平常授業に加えて国語、数学、英語の平常補習も実施している。</p> <p>また「スタディサプリ」を導入することにより、より一層の個人的な学力向上をサポートすることができた。【1学年】</p> <p>(1) 夏休みなど長期休業日を利用してオープンキャンパスに参加したり、志望校の対策模試を受験するなど具体的に自身の目標設定をする生徒が増えた。【2年生】</p> <p>(1) 3年間を見通した内容で基礎学力の定着ができたのではないと思われる。</p> <p>(2) 生徒同士が意見交換を重ねることで就職差別への認識が高まり、どうすれば適性に就職できるかを考える良い機会ができた。</p> <p>(5) 生徒たちはまだタブレットを持っていないので、教師側のみの対応となるので活動内容が限定されてしまう。【3年生】</p> <p>生徒指導部をはじめ、関係各所との連携・協力のもと、オープンハイスクールにおいて代表生徒の学校生活や現場の声を生かした学校説明を実施することができた。【総務部】</p> <p>Google for education(classroom)の積極的な活用により生徒、教員とも定着しつつある。連絡、科目登録、アンケート、授業中や家庭学習での課題提出など使用方法は多岐に渡り、またmeetによる遠隔授業が簡易的にできるようになった。</p> <p>デジタル採点を導入し、採点業務などの軽減を図った。生徒の答案がデータ化され、今後の学習指導においても有効である。また観点別評価点をそれぞれ算出するときにミスが少なくなるのも利点の一つだと思われる。</p> <p>【教務部】</p> <p>関係図書を購入を随時行っている。【図書部】</p> <p>体育の授業でありながらも、保健室と映像を共有し、授業に関するレポートの作成等を行うことができた。【体育科】</p>	<p>体育科の学習定着が極めて悪く、高校生としての学力保障をする点ではかなり厳しい現状である。</p> <p>体育科推薦入試の科目や合否判定に向けてもある程度の学力が必要であることも考慮するほうが良いのではないかと。【1学年】</p> <p>(1) 目標設定や学習計画には個人差があるので、面談などを行い個別にも対応していく。【2年生】</p> <p>(2) 現在、目に見えない職業差別についてどう向き合わせるかが課題である。</p> <p>(5) 来年度より全学年タブレットを利用できるので今の3年生の使用状況の問題は解消すると思われる。【3年生】</p> <p>ICT活用においては生徒主体の部分もあったが、まだまだ発表生徒の情報活用能力の育成という点では、できる部分があったように感じられた。さらに計画的に余裕を持った取り組みを行うことで、課題を解決することができると考えられる。【総務部】</p> <p>Google for educationを効果的に使用されている教員の方々も多く、教員同士で技術を高め合うような研修の実施などでさらに効果的な利用を目指したい。また他の高校や大学との交流もmeetの活用などICTの活用を積極的に行いたい。</p> <p>多くの教員がこのシステムにおいても積極的に活用し、定着しつつある。ただ、デジタル採点がいけない教科もあり、システムの改善に期待したい。</p> <p>このようにICTの利用が活発に行われるのに対し、情報セキュリティにおけるポリシー(個人情報、著作権、肖像権など)の取り扱いが煩雑であるのが課題である。教育現場にあったポリシーの制定など、尼崎市教育委員会に整理を求めたい。【教務部】</p> <p>教員に対しても新着図書の案内を行っているが、実際の利用者数は多いとはいえない。教員の利用機会を高めることも考えていかなければならない課題であると考えられる。【図書部】</p> <p>種目や場所によっては対応できないものもあり(屋外種目など)全ての種目において対応できるわけではない。機器や環境の整備が必要となる。【体育科】</p>

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	3.0
<p>(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る</p> <p>(2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める</p> <p>(3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める</p> <p>(4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る</p> <p>(5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める</p>			
取組	成果	課題と改善策	
<p>(1)時間厳守、挨拶、正しい服装をするなど基本的な生活習慣を指導する。</p> <p>(2)朝の学習や日々の授業を真摯に取り組むように指導をする。</p> <p>(3)「文武両道」を目標に、クラブ活動へ積極的に取り組むことを推奨する。</p> <p>(4)人権学習を通して相手のことを思いやり心を育む指導を充実させる。【1学年】</p> <p>(1)(3)友人とのつながりを大切にすることで、自他を尊重し心豊かな人間の育成を目指す。(2)修学旅行を通じて、異なる文化、習慣、考え方を理解し、広い視野を養う。【2年生】</p> <p>(1)始業のチャイムで着席完了できるように遅刻指導(学年スタッフによる廊下での遅刻指導)の徹底を図る。</p> <p>(2)年1回人権学習に取り組んでいる。</p> <p>(3)年3回のアンケート・担任との面談の実施</p> <p>(4)多様な入試に対応できる力を身につけさせる。(志望理由書模試、進学講演会、全国模試、面接指導等)</p> <p>(5)不登校生徒に対してSSW・カウンセリング委員会・学年が連携し対応していく。【3年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化。 ・生徒会新聞の発行。 ・登校指導により挨拶を促し、交通ルールを守る指導。 ・学年と協力した無許可自転車の指導。 ・昼休みに巡回して生徒たちの様子を観察。 ・制服採寸時にスカート・スラックスの選択。 ・いじめに関するアンケート調査を各学期に実施。 ・学年と協力の遅刻指導。【生徒指導部】 <p>進路ORなどを通じて、1・2学年の生徒は早期から進路に対する意識を高める。【進路指導部】</p> <p>人権学習の中で、インターネット上の差別問題、いじめ、障害者、在日外国人との共生、部落差別問題などを自分たちの課題ととらえ、解決に向けて何ができるかを考えさせる。【人権教育推進委員会】</p> <p>(2)※広範な内容にわたる蔵書を充実させるとともに生徒への周知をはかる。</p> <p>(4)※キャリア教育に関わる書籍の継続的な導入。【図書部】</p> <p>(4)高大連携で大学や専門学校から講師を派遣してもらい、将来についての多様な進路について考える機会を与える。【体育科】</p>	<p>人権学習への取り組みを様々な方法で実施することができた。学区が広いので中学校までの人権意識の違いが大きく苦労をした。</p> <p>【1学年】</p> <p>(1)人権学習や日々の生活の中で自他の違いを認識し、状況に応じて行動することができた。(2)沖縄という日常とは違う環境に身を置き、教科書やインターネットを通じて得た知識と自分自身の五感を使って感じた経験の違いを認識することで様々な考え方をすることができるようになってきている。【2年生】</p> <p>(1)どうしても遅刻・欠席の常習者(家庭の事情)が増え、その対応に苦慮している。</p> <p>(2)生徒同士が意見交換を重ねることで道徳心の向上がみられた。</p> <p>(3)いじめ認知をし、見守りをする中でいじめに対する教員の意識が変化してきている。</p> <p>(4)学校推薦型・総合選抜型入試においては一定の成果が見られた。</p> <p>(5)少しずつではあるが遅刻しながらでも登校できる生徒が増えてきている。【3年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホマナー向上キャンペーン、能登半島地震緊急支援募金など、生徒主体の活動を行うことで、「自治精神の涵養」につなげた。 ・生徒会新聞を継続的に発行した。(1月24日時点で第5号) ・挨拶をする生徒が増えた。 ・女子でズボンやネクタイを着用する生徒が出てきた。 ・無許可自転車が減った。 ・いじめの早期発見・早期対応につながった。 <p>・遅刻者への指導を行うことで、時間を守る意識が高まった。【生徒指導部】</p> <p>進学希望者については高い目標に向けて最後まで努力させることができた。就職希望者については望ましい職業観・勤労観を育成しつつ、就職先を決定することができた。【進路指導部】</p> <p>人権学習の中で、いじめ、障害者、外国人、沖縄の歴史と文化、就職差別問題について学習することができた。【人権教育推進委員会】</p> <p>(2)毎月の「NEW LIBRARY」発行により、生徒への周知はある程度はかかっている。</p> <p>(4)「○○になるには」などの書籍は継続的に随時購入を行っている。【図書部】</p> <p>4)大学の先生方からの専門的な授業や、現場で活躍するトレーナーの講義や指導を受けることで、自己の進路について深く考えることができた。トレーナー系統や医療系統への進路を選ぶものも多く出てきている。【体育科】</p>	<p>コロナ禍での中学校生活を送ってきた学年なので例年以上に「心の教育」が必要だと思われる。特に物事への判断基準が甘く安易な行動に流されていくので、時間をかけてじっくりと個人個人と向き合う時間が必要である。【1学年】</p> <p>(2)修学旅行で培った経験をこれからの学校生活で活かせるよう課題を提示していく。【2年生】</p> <p>(1)担任・家庭と連携を深め、時間厳守できる生活ができるように継続的に指導する。</p> <p>(2)最新の情報を提供する必要があらと思われる。</p> <p>(3)担任を通して、生徒観察を強化し、いじめ等の問題行動を未然に防ぐ対応が必要である。また、情報を共有する必要性を感じた。</p> <p>(4)進路に対する意識付けは前年度よりできたと思われるが依然として意識の低い生徒に対してのケアが必要である。</p> <p>(5)教務規程の見直しを図り、不登校生徒への配慮をしていく必要性を感じている。【3年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動のさらなる活性化を進めるとともに、保護者や地域住民、中学生等に活動を知ってもらえるよう、より効果的な情報発信を検討する必要がある。 ・制服だけでなくもっと多様性を受容できる環境を作りたいと思う。【生徒指導部】 <p>基礎的な学力向上はもとより、社会に出てから必要な能力の育成がより一層必要とされる。【進路指導部】</p> <p>部落差別問題などについては、今年度は重点的に行うことができなかった(就職差別の一つとしては扱った)。</p> <p>【人権教育推進委員会】</p> <p>ある程度の周知や、書籍の充実は行えているので、課題としては如何に図書室に足を運ばせて、利用する機会を増やせるかが継続的な課題である。</p> <p>各クラスが、年間1時間であっても図書室を利用する機会を設けるのも一つの方法として有効なのではないか。【図書部】</p> <p>開催時期や各授業内での内容や連携をもっと深めていく必要がある。また、大学の教員の授業の内容が、高校生にとって難解な講座もあり、引き続き、大学の教員と授業内容についてのコミュニケーションが必要である。【体育科】</p>	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	3.5
<p>(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る</p> <p>(2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める</p>			
取組	成果	課題と改善策	
<p>(1) 保護者などに連携をとりながら生徒の様子の変化にも素早く対応できるようにする。</p> <p>(2) 「総合的な探究」の授業を通して地域についての知識を深め必要なのは何かを学ぶ。</p> <p>(3) 地域の保育所等との交流を図り触れ合う場を広げ子育て等の重要性を学ぶ。【1学年】</p> <p>(2) 学校の中で中核的存在であることを考えさせ、行事への積極的参加を促す。【2年生】</p> <p>(2) 7月地域ボランティア(校外清掃)を行いました。【3年生】</p> <p>新教育課程における第3学年でのカリキュラムの作成と実施に向けた準備【教務部】</p> <p>・生徒のボランティア活動(サマセミ・市尼フェスタ)を支援。【生徒指導部】</p> <p>兵庫県教育委員会の「人権教育基本方針」・「外国人児童生徒にかかわる教育方針」に基づいて、同和問題が人権問題の重要な柱であると捉えつつ、障害のある人、外国人、多様な性、子ども等の人権に関わる課題の解決に向けた、教職員研修を行う。【人権教育推進委員会】</p> <p>(1) 職員アンケートなどを実施し、推薦図書を導入することなどを通して、図書室に対する関心を高める。【図書部】</p> <p>・全教職員が生徒の小さな変化を敏感に察知し、情報交換や連携ができる力を身に付けるため、教職員対象のカウンセリング研修会を実施する。</p> <p>・カウンセリング委員会を定期的に開催し、気になる生徒の早期発見に努めるとともに、必要に応じてSCやSSWにつなげる。</p> <p>・支援の方向性を共有化し、組織として対応できるようケース会議を積極的に行う。</p> <p>【保健部】</p> <p>市尼フェスタの開催 (サマセミとの共催含む)【体育科】</p>	<p>特にボランティアで地域の保育園児との交流はかなり有効的だったと思う。また探究の学習で幅広く地域について学習することができた。【1学年】</p> <p>(2) 生徒会長、副会長と学校生活の中心的役割を担うメンバーが選ばれ、生徒会執行部主催の能登半島地震における街頭募金では、多くの生徒が参加したりするなど学校の中核的存在であることを自覚している。【2年生】</p> <p>(1) 生徒自ら行動し、清掃活動・整理整頓ができるようになった。【3年生】</p> <p>1年次での「総合的な探究の時間」では、物事を俯瞰的に見るために「サプライチェーン」を考え、基本的な課題の立て方を学習した。またその課題を解決するために別分野の知識からもアイデアを導き出し、活かしていく「イノベーション」を考え、課題解決に役立てた。2年次では進路に絡めながら高大連携に力をいれ、自分の興味関心の高い分野を明確にしていくためのプログラムを考えている。【教務部】</p> <p>・学校外での活動をするにより積極性を身に付けられた。</p> <p>【生徒指導部】</p> <p>教員向けの人権研修として、映画「破戒」を鑑賞し部落差別問題について学習した。まとめの職員会議等で情報を共有した。【人権教育推進委員会】</p> <p>一定数のリクエストを受けて、推薦図書を導入し、図書室内にコーナーを設けている。【図書部】</p> <p>・教職員がSCによる研修を受け、うつ病について理解を深め、対応できる力を身に付けることができた。</p> <p>・月1回のカウンセリング委員会では、SSWに参加してもらうことで初期段階から助言をもらうことができ、早期対応できた。また、特別な配慮が必要な生徒についても、特別支援教育コーディネーターに繋げることができた。</p> <p>・SSWの定期的な来校もあり、ケース会議が校内で浸透し、組織的対応ができるようになった。【保健部】</p> <p>多くの参加者に市尼の各クラブに親んでもらうことができた。【体育科】</p>	<p>生徒の希望や必要性がかなり異なるので個人的な対応の難しさがあった。高大での連携ももう少し幅広くできればよいのではないかと。【1学年】</p> <p>(2) 来年度は、3年生として自分自身の進路実現のことがあるが市尼生としての誇りを持って行動することを促していく。【2年生】</p> <p>(2) 学校が定めている時期が7月のため、熱中症の心配がある。時期の変更が必要である。【3年生】</p> <p>3年次では2単位で行う「総合的な探究の時間」において、自己分析を行い、自分の進路に向けた探究活動を十分に行えるようにプログラムを実施していくように計画している。【教務部】</p> <p>・多くの生徒が自ら参加できるよう、意識を高めたい。【生徒指導部】</p> <p>「尼崎市人権文化いきづまづくり計画」を学校現場でも具体化できるよう、個別の人権課題について研修とともに個別の人権課題を横断的にとらえるスキルについて研修が今後も必要と思われる。【人権教育推進委員会】</p> <p>まだまだリクエストの数が少ない状況であるので、職員に対しての情宣活動も今後の課題として考えて行くべきであろう。【図書部】</p> <p>・教職員の対象のカウンセリング研修会の参加率が約半数と低かった。開催時期や内容について検討が必要。【保健部】</p> <p>・市尼フェスタの開催が8月であったため、熱中症対策などにより、場所の変更や時間の短縮が起きた。また、参加できないクラブもあり、時期や活動時間の変更(夕方の涼しい時間帯にナイターで開催)など、改善点は多かった。【体育科】</p>	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.9	3.0
<p>(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る</p> <p>(2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る</p>			
取組	成果	課題と改善策	
<p>(1) 教員は過去の阪神淡路大震災の経験を活かし、この経験を体験していない生徒たちの模範となるような日々の生活を送れるようにアドバイス等を行う。</p> <p>(2) 避難訓練に積極的な意識で参加し自分の身を守り相手も尊重する姿勢を学習する。</p> <p>(3) 登下校時には十分に安全へ配慮し、特に自転車通学では今まで以上に安全への心構えを学習する。</p> <p>(4) 救急救命講習を学年全員が受講し不慮の状況に遭遇しても対処できる方法等の知識と実技を学ぶ。【1学年】</p> <p>基本的な生活態度の確立の上に自主的自発的な行動をとり、集団を牽引できるリーダーを育成する中で安全確保と危機管理能力を磨く。【2年生】</p> <p>(1) 自転車登校を含む通学指導の徹底</p> <p>(1) 教室の清掃・ロッカーの整理整頓</p> <p>(2) 1学期 机上避難訓練(HR)</p> <p>2学期 避難訓練【3年生】</p> <p>防災教育の充実と実践 →</p> <p>年2回の総合避難訓練の企画立案及び実施【総務部】</p> <p>・登下校の安全指導を実施。道路の左側を通行する、自転車を乗るときイヤホン・スマホを使用しない、朝の混雑時に校内では自転車を降りるなど交通指導。【生徒指導部】</p> <p>・生徒に対する救命講習を実施する。</p> <p>・教職員対象の救命講習も実施し、教職員の危機管理能力の向上を目指す。</p> <p>・大掃除用のチェックシートを作成し、掃除の徹底を図る。【保健部】</p> <p>クラブ代表者会議の中で、自転車のマナーや登下校時の安全確保についての注意喚起を行った。【体育科】</p>	<p>3月に学年全員が救急救命講習会を実施する。</p> <p>また過去の震災等の事例を学び今後の取り組みに少しでも役立たせることができた。【1学年】</p> <p>修学旅行では、空港や公共施設において集団を牽引するリーダーが指示を出し、クラス全員がその指示に従い安全確保をすることがどの場面でもできていた。【2年生】</p> <p>(1) 定期的に指導しているが、地域の方々からの苦情が増加している。</p> <p>(1) 生徒自ら行動し、清掃活動・整理整頓ができるようになった。</p> <p>(2) 1回目避難経路の確認・さらに2回目には、避難訓練を行い再確認できてよかった。【3年生】</p> <p>1学期の資料を参考にした机上防災訓練と2学期の消防署の指導の下、全生徒・全職員が参加し地震・火災を想定した避難訓練が迅速かつ安全に実施できた。【総務部】</p> <p>・大きな事故は無く、自転車による踏切や車道での右側通行が少なくなった。</p> <p>・地域の方と協力して登校指導することができた。【生徒指導部】</p> <p>・尼崎市北消防署の方から心肺蘇生法・AEDの使用について直接指導してもらったことで、生徒の安全に関する意識が高まり、実践的な応急手当が身に付けることができた。</p> <p>・尼崎市消防局のご指導のもと、教員対象の救命講習(救急シミュレーション研修)を実施し、緊急時の手順の確認を行うことができた。</p> <p>・大掃除用のチェック用紙(階段用、トイレ用)を作成したことによって、各清掃場所で大掃除に取り組みやすくなった。【保健部】</p> <p>自転車のマナー向上など、一定の成果を見ることができた。【体育科】</p>	<p>登下校時の自転車通学での事故が数件あり、自らが注意をしていても加害者の不注意により被害者になった例もあった。社会全体としての自転車マナーなどが浸透できるようになればと願う。【1学年】</p> <p>誰がリーダーになっても、集団の安全確保を考え行動し、集団としての危機管理能力を磨いていく。【2年生】</p> <p>(1) SHR・LHR等学校生活の中で安全についての注意喚起する機会を増やすこと。また、自転車の安全指導が必要である。</p> <p>(1) 教室以外の場所にも目を向ける必要がある。</p> <p>(2) 生徒の避難訓練に対する意識が低いのが課題。起震車や煙体験などを含んだ訓練などを検討すべきである。【3年生】</p> <p>地震・火災以外の災害、特に津波を想定した避難訓練も次年度は計画したい。【総務部】</p> <p>・歩きスマホ含め、注意しても言うことを聞かない生徒に対してどう対処すべきか迷った。</p> <p>・登下校指導は、生徒指導部だけで行うのではなく、職員の協力体制を整えることが課題である。【生徒指導部】</p> <p>・教員対象の救命講習は、今年度はシミュレーション研修をメインに行ったため、心肺蘇生法やAEDの使用についてなどの実技指導については、次年度の持ち越しとなった。【保健部】</p> <p>近隣からの苦情や、第二グラウンドへの往復時の自転車のマナーについての苦情などが発生した。引き続きマナー教育を行っていく必要がある。【体育科】</p>	

<p>スクールポリシー グラデュエーション・ポリシー ・常に自らを省みて次に生かす習慣 ・国際社会で通用するリーダーシップ 他者に対する敬意と思いやりの心をもち、礼節を重んじる態度 カリキュラム・ポリシー ・自ら課題を設定し、課題解決能力を伸ばす探究活動 ・進路実現に向け、確かな学力を身につける授業 ・ICT等を取り入れ「できる・わかる」が実感できる授業 アドミッション・ポリシー ・スポーツで社会貢献ができるよう科学的な視点を重視した活動 ・チャレンジ精神を身につけたい ・文武両道に励みたい ・国際交流がしたい ・スポーツで高みを目指したい</p> <p>(1) スクールポリシーの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) スクールポリシーの具現化と指導の充実</p>	<p>評価Ⅰ(教職員)</p> <p>2.8</p>	<p>評価Ⅱ(校園長)</p> <p>3.0</p>
<p>取組</p>	<p>成果</p>	<p>課題と改善策</p>
<p>(1)「文武両道」をより良く実践するために日常時からコツコツと取り組むことを学ぶ。 (2)今年度から特色選抜合格者を1クラスに集め語学研修講座の充実にも努め、将来文系または理系のどちらへ進学希望をしても、国際的な視野で物事に対処できるようリーダー性を有する生徒を育てる。【1学年】 「できる・わかる」が実感できる授業を受ける中で主体的に取り組む姿勢を育成する。【2年生】 (1)学校行事・授業・課外活動あらゆる教育活動において知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を育成する。 (2)生徒の進路実現に向けて、計画的に生徒に対して進路情報の提供、受験の対策を行う。【3年生】 生徒募集におけるスクール・ポリシーの周知徹底【総務部】 1学年普通科での「総合的な探究の時間」の経験を2学年では体育科が、3学年からは体育科、普通科とも「総合的な探究の時間」を設定し、さらに深めていく。特に進路にも意識し、自己分析探究をテーマに進路に関わる自己推薦書や面接練習にも繋げたい。また、国際総合類型はエンパワーメントプログラム(グローバルスタディーズプログラム)が始まり、高大連携で短期集中の講座が開始される。効果的なプログラムにするためにさらに準備のための授業を「総合的な探究の時間」の中で実施できるように計画していきたい。【教務部】 ・生徒が主体的に取り組める活動をする機会を提供。市高祭でクラスTシャツ作成を4年ぶりに再開できた。 ・幼稚園などのボランティア活動の機会を提供予定。 【生徒指導部】 生徒一人一人が希望する進路の実現を目指積極的に努力することを通して、学力だけでなく人間性の面でも大きく成長することを目指す。旧課程最後の年であり、一昨年度から実施の「大学入学共通テスト」、入試改革における新入試の情報収集を行い、学年と連携を密にしながら進路指導を行う。【進路指導部】 ※図書委員会活動の活性化。 ※生徒へのアンケートの定期的な実施。 ※配架やレイアウトの工夫。【図書部】 スポーツ総合演習やスポーツ概論において、ICTや最新の機器を活用しながら、競技力の向上につながるような授業に取り組んでいる。【体育科】</p>	<p>12月に本校、3月に東京で語学研修を実施することができた。教育委員会とも協力しながら取り組むことができた。また姉妹校である南旨高校が来校した時には交流しより実践的な取り組みをすることができた。【1学年】 授業を受ける中で、主体的に学び、自ら考え行動する力が育成されている。行事などにおいても規律正しい行動をとることができている。【2年生】 (1)文化祭・体育祭等、生徒たちは協力し、積極的に活動を行うことができた。 (2)様々な取り組みの結果、生徒の進路実現に役に立つことができた。【3年生】 中学校訪問や学校説明会において、スクールポリシーを学校外に周知する機会を作る努力はできた。【総務部】 令和4年度から新教育課程に移行し、新年度で全学年、新課程で教育活動が実施される。選択群の科目も旧課程時に比べると整理され、生徒にとっても進路によって選択科目が明確になった。【教務部】 ・主体的に活動する機会を提供することができた。クラスTシャツ作成ではルール作り(価格設定、個人の意思の尊重など)について生徒会が主体的に取り組んだ。 ・子どもたちと触れ合うことにより、自分の将来を考えさせるきっかけを与えた。【生徒指導部】 3学年進学希望者に対する補習や小論文・面接指導及び各オリエンテーション等を実施した。 3学年就職希望者に対する面接・作文・礼儀指導及び各オリエンテーション等の実施した。 1・2学年の生徒に対するオリエンテーション・ガイダンス等の実施した。【進路指導部】 図書委員会は日々のカウンター当番や図書館報の発行、読書週間の案内などで積極的に活動を行っている。アンケートも定期的な実施し、一定の回答を得ている。配架やレイアウトの工夫も随時行っている。【図書部】 トレマックスシステムを活用しての、筋力の時系列的変化や、インボディでの体組成測定などを利用し、体の変化と競技力の向上について、授業を通して学ぶことができるようになった。【体育科】</p>	<p>語学研修の実施時期や場所について内容を踏まえた取り組みを具体的に検討する必要がある。特に学年を中心に今年度は取り組みをしたが、学校全体として取り組む組織的な活動にできれば良いかと思う。【1学年】 それぞれの進路実現を考える中で、何事にもチャレンジできるよう個々に対応していく。【2年生】 (1)文化祭・体育祭等、生徒たち自身が主体的に活動できるように企画段階から工夫すべきである。 (2)入試の多様化に対応できるように進路指導部を中心に考えていく必要がある。他の学校に比べて遅れているように感じた。【3年生】 職員並びに在校生にスクールポリシーを浸透させる必要性があるとする。行事等でスクールポリシーに関連させる動きや、スクールポリシーに沿った行事計画や指導を目指す。【総務部】 必修科目数が増加したこともあり、2年生では総合的な探究の時間がとれず、3年次で2単位分その科目を設定せざるを得ない事になり、時間割が少し歪になった。選択群の中の教科やこの総合的な探究の時間の持ち方等、生徒の学習効果などの検証を行い、さらに様々な生徒の進路に対応したカリキュラムになるように精査したい。【教務部】 ・様々な事案に対して、組織的な対応ができる体制づくりがより一層求められる。 【生徒指導部】 進路指導部と学年、他の教員との連携が大切と思われる。【進路指導部】 アンケートの回答率を上げ、図書室の利用人数を増やすことが継続的な課題である。例えば、図書委員会主催のイベント(ピリオバトなど)の開催も効果的ではないか考える。将来的には図書館が学内の情報センターの役割を担うような位置づけになっていくのではないかと考える。【図書部】 機材が少ないために、体育科全員を測定するのに莫大な時間を要する。普通科の体育まで活用しようと思うと、機器の増加が必須である。また、教員の研修にかかる時間も確保しなくてはならない。【体育科】</p>

研究テーマ 「ICTを活用した学習指導」		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.5	3.1
<p>(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実</p>			
取組	成果	課題と改善策	
<p>Googleの classroomを利用し、生徒個人(スマートフォン、タブレット、PC等)への利用を促し、積極的に、遠隔にて、連絡、課題の出題等を実施している。また、欠席生徒に対して授業等の資料や内容を連絡することも推奨している。特に、登校困難時には保護者の承諾を経て、Meetで授業への参加にも取り組んでいる。【1学年】</p> <p>タブレット端末を活用し、主体的に学ぶ姿勢と学習習慣を確立する。【2年生】</p> <p>(1)(2)体育科で卒業論文に ICTを活用し、グループワークを行い、1月に全体発表を行う(今年度は、優秀なものに関しては桜宮高校合同発表会で発表を行う)【3年生】</p> <p>classroom(PCアプリケーション)はスマートフォンやタブレット、PCを利用し、遠隔にて、生徒への連絡、課題の出題や採点ができるアプリケーションである。このアプリケーションを引き続き今年度も利用する。スムーズにアカウント移行を行い、生徒のストレスのない利用に繋げたい。生徒の学習支援をより強化できるように他のgoogleアプリケーションを併用し、効果的にclassroomが使用できるように研修を積み、生徒の積極的な利用に繋げたい。【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページに「生徒指導部からのお知らせ」(生徒会)を開設。 ・忘れ物や落し物などクラスルームでの呼びかけ。【生徒指導部】 ・スライドソフトや、GIS(地理情報システム)、動画などを使って、生徒に視覚的に理解させ、考えさせる。Googleスライド、Mentimeterなどを使い、生徒に発表の機会を設ける。【地理歴史科・公民科】 ・授業において、タブレットPCを活用し、実際に自分たちの運動動作を確認したり、運動の能力向上につながる動画を利用した授業を行う機会が増加している。【体育科】 ・パソコンとプロジェクターを利用し、授業を円滑に進めている。授業内容に関連する動画や写真を投影している。 ・プレゼンテーションの提示物(写真)をClassroomを通して提出させ、発表時にプロジェクターで投影して利用した。 ・スタディサプリを課題として配信し、授業内容理解の補助として利用している。 ・学級閉鎖の際や不登校傾向の生徒を対象に、授業を同時配信している。 ・Classroomを利用し、課題、テスト範囲表、日本語訳等の配信を行っている。 ・生徒(希望者)のタブレットに英和・和英辞典を導入して使用させている。 ・教科書と連携したデジタル教材を購入し、タブレットで利用している。(発音のチェックや音読機能がついている)【英語科】 ①単元終了時に、グーグルフォームを用いて振り返りワークシートに取り組みさせた。 ②グーグルスライドやジャムボードを用いて、写真・散文・韻文を学級内で発表させた。 ③パワーポイントを用いて説明した。 ④タブレットを用いて調べ学習をさせた。 ⑤グーグルミートを用いて、特別な事情による長期欠席の生徒に対するオンライン授業を実施した。【国語科】 ・文章のみではイメージが困難な事象の画像化・映像化し、理解を深めさせる。 ・web教材による週末課題の実施 ・Googleフォームによる自己評価シート、授業アンケートの収集【理科】 ・タブレット端末を利用し、予習・復習(デジタルドリル)を実施 ・パソコンを利用して、プログラミングを実施 ・googleフォームでの宿題提出【商業・情報科】 	<p>タブレットの使用によりクラスルームから課題や連絡事項の配信ができるようになり、生徒たちも慣れてきたように感じ取れる。また「スタディサプリ」への取り組みも少しずつ定着している。また平常授業でも積極的にICT機器の利用に取り組んでいる教科も多い。特に欠席生徒への連絡等にクラスルームを活用できた。Meetによる家庭で授業を受けることも実践できた。【1学年】</p> <p>各授業でのタブレット端末の使用や、スタディサプリの活用によりスキマ時間などを活用し、学習習慣が身につけてきている。【2年生】</p> <p>(1)個人にタブレットがない中、生徒が工夫をして素晴らしい内容の論文を作成することができたように思えた。【3年生】</p> <p>Google for education(classroom)の積極的な活用により生徒、教員とも利用が定着しつつある。連絡、科目登録、アンケート、授業中や家庭学習での課題提出など使用方法は多岐に渡り、またmeetによる遠隔授業が簡易的にできるようになった。デジタル採点を導入し、採点業務などの軽減を図った。生徒の答えがデータ化され、今後の学習指導においても有効である。また観点別評価点をそれぞれ算出するときにミスが少なくなるのも利点の一つだと思われる。多くの教員がこのシステムにおいても積極的に活用し、定着しつつある。【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月より生徒指導部からのお知らせを15件、生徒会を10件を掲示することができた。(12月末現在)【生徒指導部】 ・文字だけでは説明に時間がかかるものも、視覚的に理解させることで、考える時間を増やすことができた。 ・生徒各個人がスライドを作成し班で討論した上で、クラス全体に発表させることができた。【地理歴史科・公民科】 ・自分の動画の撮影など、視覚によるフォームチェックなどを行うことで、具体的な課題を見つけ、その改善に取り組むことができてきている。 ・授業内で理解が不十分な内容を、生徒自身が個人的に振り返ることができている。 ・生徒の学習の遅れを防ぐことができています。 ・印刷物を減らすことができ、教員の負担減にもなっている。 ・生徒は単語を調べるだけでなく、発音の確認をしながら使用する。 ・ネイティブの音声聞きながら音読練習ができ、発音チェック機能をゲーム感覚で楽しみながら利用している。【英語科】 ①学習目標に対応した学習内容をメタ認知することができた。また、生徒自身が学んだ作品を日常生活につなげるための感想文を共有できた。 ②それぞれが主体的に自身の「感性・価値観」と向き合い、言語化することができた。また、異なる人の「感性・価値観」に触れることができた。 ③説明に必要な授業時間を短縮し、振り返りなどの活動ができた。パワーポイントをPDFファイルでクラスルームに添付し、授業の振り返りをしやすくすることができた。 ④関連する事象について調べることができた。 ⑤生徒がオンライン授業に参加することはなかったが、特別な事情によって登校ができない生徒へ合理的配慮を行うことができた。【国語科】 ・画像化、映像化により生徒の理解が深まった。 ・週末課題を登下校中の電車内で行うなど、時間を有効活用できる生徒が増えた。【理科】 ・デジタルドリルをタブレット端末で実施。 ・プログラミング教育ができた。 ・googleフォームで宿題提出させたため、集計作業が容易であった。【商業・情報科】 	<p>不登校傾向の生徒がMeet等で遠隔授業を受講しても履修にはなかなか難しい内容があるので、どこまで対応できるのか検討が必要である。またICT機器は故障等のトラブルも発生するので、その際の迅速な対応が難しい。510教室等の選択教室に備え付けのプロジェクターがないように、すべての教室でICTが同様に使用できないので不自由さが拭えない。【1学年】</p> <p>タブレット端末の活用が上手くできていない生徒もいるので個別に対応していく。【2年生】</p> <p>(1)これからは、本当の意味で研究成果が発表できる内容を求める必要があると思われる。【3年生】</p> <p>Google for educationを効果的に使用されている教員の方々も多く、教員同士で技術の高め合うような研修の実施などさらに効果的な活用を目指したい。また他の高校や大学との交流もmeetの活用などICTの活用を積極的に行いたい。ただ、デジタル採点が使にくい教科もあり、システムの改善に期待したい。</p> <p>このようにICTの利用が活発に行われるのに対し、情報セキュリティにおけるポリシー(個人情報、著作権、肖像権など)の取り扱いが煩雑であるのが課題である。教育現場にあったポリシーの制定など、尼崎市教育委員会に整理を求めたい。【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示だけでなく周知することが課題である。【生徒指導部】 ・「主体的に対話的な学習」をある程度できるようになってきているが、より「深い」学習となるようになるためには、十分な準備が必要である。【地理歴史科・公民科】 ・動画を撮影したり、調べ学習をする時間が増えた反面、実際に体を動かす時間が減少しており、実技種目という特性とICT活用の割合について考えていかないといけない。【体育科】 ・全ての教室に据え付けのプロジェクターが設置されている状況ではないので、生徒の受講環境に格差が生まれている。個別教室にも据え付けのプロジェクターの設置をお願いしたい。 ・教員のICT力に差があり、教科担当者全員が同じように授業を展開できている状況ではない。自己研鑽に励み、常に情報をアップデートしていく必要性を感じる。 ・生徒が安易に翻訳サイト等を利用して、課題に取り組んでしまう傾向にある。課題の取り組みせ方に苦慮している。英作文等は授業中に取り組みさせる等、対策を考えていきたい。【英語科】 ①生徒がタブレットを持参していない場合を想定して、プリントを用意することがある。また、生徒によってタイピングの力に差がある。 ②スライドで行う場合、他の生徒の作品を編集してしまう場合がある。発表がどうしても苦手な生徒や、合理的配慮が必要な生徒がいる点に留意が必要である。 ③スライド準備の量が担当者によって差があり、全クラス同じような授業形式をとるとは難しい。チームティーチングによる指導を取り入れたクラスもあった。 ④情報の正確さという点においては危険性がある。生徒が「一般的な正解」を容易に手に入れることができるため、生徒自身が考える機会を損ねる可能性がある。 ⑤生徒に意見を求めることが難しい。どれほど理解を得られているかを測れない。授業実施する担当者に負担が大きい。【国語科】 ・実験データの解析や、複雑で膨大な計算を、表計算ソフトを用いて行いたい。 ・画像や映像で理解する生徒が増えたが、反面自身でイメージする能力を伸ばせなかった。【理科】 ・現在、無料でデジタルドリルが利用できるため、予習・復習として取り入れているが、有料になった場合、デジタルドリルを取り入れるか検討は必要。 ・コンピュータ室では、ルーターがつか設置されていないため、コンピュータ室ではタブレット端末は使用できない。【商業・情報科】 	

